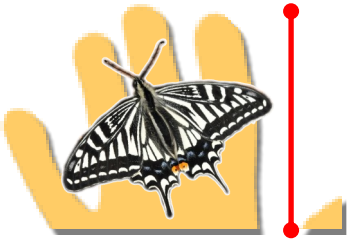
小山田緑地　　両面あり

春のチョウガイドシート①

★：成虫越冬
●：春だけみられる

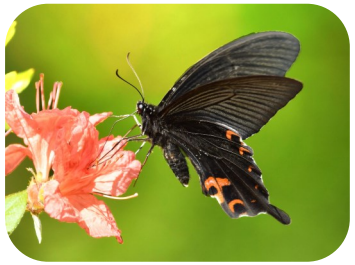
春はチョウがにぎわう季節です。さなぎから羽化したばかりの美しい姿が楽しめますが、過酷な冬を乗り越え、ボロボロになったはねで必死に生きぬく姿もまた魅力的です。さまざまなチョウの暮らしに、ぜひ目を向けてみてください。



※大人の手:約100ミリ

アゲハチョウの仲間

大きな種類が集まるチョウのグループ



クロアゲハ

後のはねのうら側に赤い斑点模様がある。ツツジの花や、吸水のため田んぼに集まる。

アゲハ

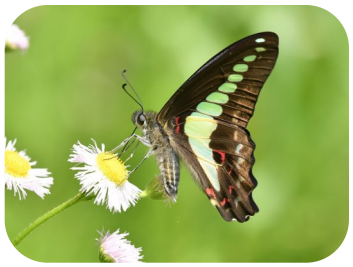
はねは黒と白のしま模様。植物の花だけではなく、水辺で吸水することもある。

キアゲハ

はねは黒とカスタードの様な黄色のしま模様。やや湿った環境でよくみられる。

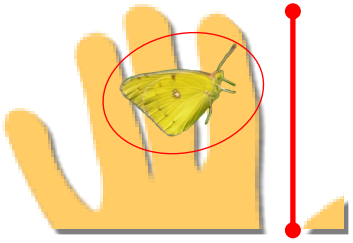
カラスアゲハ

はねの表面が青緑に輝く。ツツジの花や、吸水のため田んぼに集まることもある。



アオスジアゲハ

黒いはねに青緑のラインがよく目立つ。よくハルジオンの花などで蜜を吸っている。



※大人の手:約100ミリ

シロチョウの仲間

もっともよくみかけるチョウの仲間

★キタキチョウ

はねのうら側に黒い斑点がある。スミレの花で蜜を吸い、地面で吸水することもある。

モンキチョウ

後のはねのうら側に白い斑点があり名前の由来になっている。タンポポに来る。

●ツマキチョウ

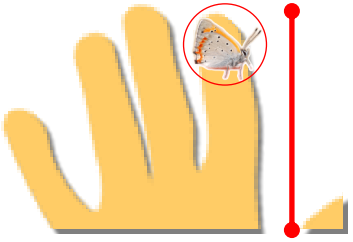
モンシロチョウより小さく、草地を飛び回っている。オスは白いはねの先が黄色い。

モンシロチョウ

白いはねに黒い斑点ある。田畑近くのタンポポや菜の花でよくみかける。

スジグロシロチョウ

白いはねに黒いライン模様がある。モンシロチョウよりややうす暗い環境を好む。



※大人の手:約100ミリ

シジミチョウの仲間

指先に乗るほどの小さなチョウの仲間

★ウラギンシジミ

春先はメスをよくみかけ、はねのうら側と表側の模様が白銀色。オスは表側が橙色。

★ムラサキシジミ

はねの表面が青紫色に輝く。常緑樹の葉の上で、はねを開いて体を温めている。

トラフシジミ

はねのうら側が灰色と白色のしま模様で、名前の“虎斑（とらふ）”の由来となっている。

●コツバメ

姿をみせるのは午前中。静止中ははねを開かず、側面を太陽に向けて体を温める。

ベニシジミ

色鮮やかな紅橙の模様が目立つ。シジミチョウの中では、もっともよくみかける。

小山田緑地　両面あり

春のチョウガイドシート②

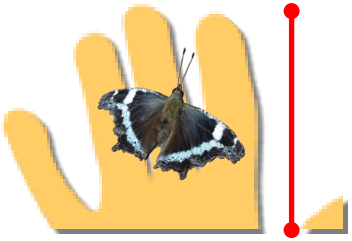
★：成虫越冬
●：春だけみられる

チョウの観察の注意点：チョウはとても傷つきやすい昆虫です。虫網や素手で捕まえると、はねがボロボロになってしまうので、そっと見守るようにやさしく観察してください。美しい姿が残せる**写真撮影がおすすめです。**

ヤマトシジミ
はねのうら側は暗い灰色で、マジックで描いたようなはっきりとした斑点がある。

ルリシジミ
はねのうら側は明るい灰色で、シャープペンで描いたような細かな斑点がある。

ツバメシジミ
はねの後側に橙色の模様があり、ツバメの尾のように、外側に小さく突き出ている。



※大人の手:約100ミリ

タテハチョウの仲間
モンシロチョウからアゲハまで、はねの大きさはさまざま

★テングチョウ
やや小さなタテハチョウ。顔が“天狗の鼻“のように前に突き出ているのが名前の由来。

コミスジ
羽ばたきと滑空を交えながら軽やかに飛び回る。地面や動物のフンで吸水する。

★キタテハ
枯草の上で、はねを開いて静止している。草地のタンポポの花によくやってくる。

★ヒオドシチョウ
木々に囲まれた森の道などでみられる。倒木や擬木の上によく止まっている。

★ルリタテハ
黒いはねに水色のラインがよく目立つ。木道や石垣などによく止まっている。

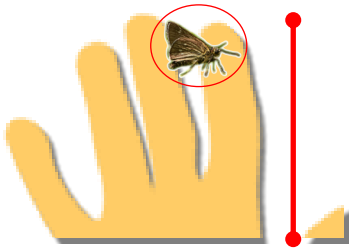
★アカタテハ
はねの鮮やかな紅橙色が名前の由来。花だけでなく、地面で吸水することもある。

★ヒメアカタテハ
アカタテハよりやや小さく、はねの橙色の模様が少し異なる。畑や草地に多い。

コジャノメ
はねの両面に大きな目玉模様がある。花には来ず、樹液や動物のフンに集まる。

★クロコノマチョウ
アゲハぐらいの大きさで、はねが枯葉にそっくり。うす暗い森にいて目立たない。

ヒメウラナミジャノメ
はねに小さな目玉模様があり、裏面は細かな波模様。草地をちょこちょこ飛び回る。「。る。



※大人の手:約100ミリ

セセリチョウの仲間
指先に乗るほどの小さなチョウの仲間

ダイミョウセセリ
はねは黒く、先の部分に白い斑点がある。ヒメジョオンなど白い花でよくみかける。

●ミヤマセセリ
森の近くの落葉の上の止まっている。レンゲやハルジオンの花にやってくる。

コチャバネセセリ
はねの裏面が黄土色の毛でおおわれている。ヒメジョオンの花や動物のフンに集まる。